

アイヌ政策推進交付金事業計画

1 事業名	長万部町アイヌ政策推進事業
2 事業の種類	地域・産業振興事業
3 事業の目的	アイヌ文化のブランド化により産業振興を図ることによって、アイヌの人々が誇りを持って生活することができ、その誇りが尊重される社会の実現を図り、共生社会の実現に寄与する。
4 事業の概要	<p>(1) 文化振興事業 なし</p> <p>(2) 地域・産業振興事業 ア 水産業振興(水産物のアイヌブランド化) ○事業実施主体 北海道長万部町 ○事業の実施場所 長万部町内、首都圏等大消費地 ○事業の実施期間 令和4年4月～令和5年3月 ○事業の内容と考え方 ホタテ養殖の稚貝へい死に係る調査研究事業を行うとともに、本事業によりホタテ養殖の水揚げ量を安定させ、ブランド化を目指す委託調査を実施し、ホタテのアイヌブランドとしての販売を強化する。 このうち、令和4年度については、ホタテ貝のブランド化を推進するため、宣伝、商品開発、商談会などを実施する。</p> <p>(3) コミュニティ活動支援事業 なし</p>
5 アイヌ施策推進地域計画における記載	<p>4-3 観光の振興その他の産業の振興に資する事業</p> <p>■水産業振興(水産物のアイヌブランド化)・・・ホタテ養殖の稚貝へい死に係る調査研究事業を行うとともに、本事業によりホタテ養殖水揚げ量を安定させ、ブランド化を目指す委託調査を実施し、ホタテのアイヌブランドとしての販売を強化する。</p>
6 事業の成果目標等	
(1) 成果目標の達成に向けた工程	<p>ア 文化振興事業 なし</p> <p>イ 地域・産業振興事業 水産業振興(水産物のアイヌブランド化) ホタテ貝養殖の稚貝へい死に係る調査研究事業を行うとともに、ブランド化の検討及び販売強化を行うことによって、アイヌの人々が誇りを持って生活することができ、その誇りが尊重される社会の実現を図る事業であり、ホタテ貝の水揚げ量の安定化及びブランド化が進めば効果が高まると考えられる。</p> <p>ウ コミュニティ活動支援事業 なし</p>

(2) 成果目標	<p>ア 文化振興事業 なし</p> <p>イ 地域・産業振興事業 ホタテのアイヌブランド関係WEB閲覧数 (最終目標)令和5年度 30,000アクセス/年間</p> <p>ウ コミュニティ活動支援事業 なし</p>
(3) 成果目標の確認の方法	<p>KPIである、噴火湾長万部地区に適した稚員を1地域以上選定及びアイヌブランド関係WEB閲覧数について、実績を公表する。また、事業を実施する部局以外で構成する役場管理職員で構成する評価委員会により、目標の達成状況等について検証を行い、改善点を踏まえた計画期間内の事業実施等に反映する。</p>
7 地域の概要	
(1) 地域におけるアイヌ文化等の現状及び課題	<p>長万部町においては、「長万部(オシャマンペ=鯨のいる所)」や「静狩(シリトカリ=行き止まり)」「国縫(クンネイ=黒い所)」「紋別(モペツ=静かな所)」「ルコツ(ルコッチ=沢の道)」などアイヌ語由来の地名が多く残されているとともに、昭和初年には町内の旭浜地区において13～15戸からなるコタンがあったとされ、昭和20年代まで同地区コタン住民によるイオマンテ(クマ送り儀礼)の記録がある。また同地区のコタン住民により昭和6年～14年頃まで「エカシケル保存会」が設立されアイヌ民具資料館「エカシケル(祖先の尊き家)」の経営やアイヌ儀礼の披露を積極的に行ってきた記録がある。上記地区の他、明治後期～大正期には国縫地区、中ノ沢地区、花岡地区、平里地区等に2～3戸からなるコタンがあるなど、歴史的にアイヌ文化等に深い関わりを持っている。</p> <p>オシャマンペ(長万部)の名は古く、すでに17世紀には、松前藩の不平等貿易へ抵抗し一斉蜂起したアイヌ軍と松前藩の戦争＝「シャクシャインの戦い」(1669年)の戦記等に、決戦場となったクヌイ(国縫)とともに記されている。</p> <p>その名は道内の多くの地名同様アイヌ語に由来し、直訳すると「オ(川口)シャマン(鯨)ペ(あるところ)」、すなわち「鯨(カレイ)のたくさんとれる川口」となります。古アイヌ語では「オ(川口)シャマン(横になった川)ペ(あるところ)」となり、元々は長万部川の「横になった川口」という地形特徴を言い表していたものが、17～18世紀にはアイヌ自身が「鯨のたくさんとれる川口」と付会した地名解釈を和人に伝承したと考えられます。</p> <p>長万部町にある「静狩貝塚」は、縄文時代後期初頭(約4千年前)の大規模な貝塚であり、貝類は、ほっき、あさり、はまぐり、かき、ほたてなどが見られ、また、人骨のほか祭具と思しきクマ石像などが発見されています。さらに遡れば、縄文早期に使用されたシカの落とし穴(Tピット)の見つかった共立遺跡や、旧石器時代の北方式の石刃(石刃鏃)の最南端出土地であるオバルベツ2遺跡などがあります。</p> <p>長万部町には昭和21年4月北海道アイヌ協会長万部支部(現・長万部アイヌ協会)が設立され、これまでアイヌ文化の復興や伝承を図るとともに、アイヌ文化等の発信を行ってきた。</p> <p>アイヌ刺繍を学ぶサークル「長万部チセの会」では、年12回のアイヌ実践講座を実施し、難易度の高い刺繍活動を実施している。</p> <p>また、長万部町教育委員会では、平成30年に町民に対して自地域のアイヌの歴史や文化を学ぶための講演会を開催したほか、寛文9年(1669年)に「シャクシャインの戦い」で最大の激戦地となった国縫川ほとりの旧国縫小学校敷地に平成28年に「シャクシャイン古戦場跡碑」の石碑を設置、また長万部町民センターの郷土資料室では昭和55年の開館当初からタマサイ(耳飾り)やイクパスイ(棒酒箸)などの民具やアイヌ関連資料を収蔵・展示し、また平成23年には同センター収蔵の丸木舟1点、アイヌ民族衣服4点を町指定有形民俗文化財とするなど、町内ではアイヌの歴史や文化を学ぶ機会の充実が図られており、町民の関心が高まりつつある。また、長万部町では、令和元年に「シャクシャインの戦い」350年慰霊記念事業としてアイヌ文様刺しゅうや歴史講演会などの催しを行い、次世代への歴史継承事業を行っている。</p> <p>このように長万部アイヌ協会等によるこれまでの取組により、町内でアイヌの歴史や文化を学ぶ機会は相当程度あり、町民の関心は高いものの、アイヌ関連団体会員の高齢化や経済的理由により文化伝承活動に専念することができないなど、アイヌ文化等の担い手が不足しており、次世代への円滑な継承が喫緊の課題となっている。</p>

	<p>当町の主要産業は水産業であるが、ホタテ貝養殖漁業を中心に、秋サケ定置網漁業、カレイ刺網漁業、ほっき桁曳(けたびき)網漁業を組み合わせた沿岸漁業を営んでいる。そのうち、ホタテ貝養殖業は、漁業組合員のほとんどが従事し、漁協総漁獲高の約9割を占める水揚実績となっており、ホタテ貝養殖業に携わる漁業者・漁協及び加工業者等、本町における大きな産業となっている。</p> <p>近年、ホタテ貝の大量へい死が大きな問題となっており、現在、町、漁協、道、研究機関が連携し原因究明を行っているが、未だに解明されておらず、廃業を口にする者もあり、一刻の猶予も許されない状況となっている。</p> <p>このホタテ貝養殖に携わる人の約6割(注)はアイヌの人たちである。アイヌの人たちを含む町民の生活を守るためにホタテへい死に係る調査研究を行い、水揚げ量の安定の暁には、ブランド化を図り、町の産業振興につなげていく必要がある。</p> <p>(注)昔からアイヌの人たちは、夜になると「ラッチャコ」と呼ばれる、三つ叉の木にホタテの貝殻を乗せ、魚油に火を灯すランプを生活用具として使っていた。アイヌの人たちは、ホタテを生活の糧として、また生活用具としてうまく活用してきた歴史がある。自然と共生し、大切にするアイヌの人たちの生き方をよく表しているが、こうしたホタテとの関わりがあり、当町ではアイヌの人たちには代々ホタテ漁師が多く、町のホタテ漁師の約6割をアイヌの人たちが占めている。</p>
(2)施設等の管理運営体制	
(3)アイヌ関係団体及び地域住民の協力体制	アイヌの人々(長万部アイヌ協会)、長万部漁業協同組合とは定期的に意見交換を行っている。

8 収支予算

(1) 収入の部

(単位:円)

区 分	本年度予算額 (本年度精算額)	前年度予算額 (前年度精算額)	比 較 増 減	
			増	減
国庫補助金	40,000,000	18,768,000	21,232,000	0
市町村負担額	10,000,000	4,692,000	5,308,000	0
計	50,000,000	23,460,000	26,540,000	0

(2) 支出の部

(単位:円)

経 費 区 分	本年度予算額 (本年度精算額)	前年度予算額 (前年度精算額)	比 較 増 減	
			増	減
地域・産業振興事業	50,000,000	23,460,000	26,540,000	0
委託料	50,000,000	23,460,000	26,540,000	0
合 計	50,000,000	23,460,000	26,540,000	0
委託料	50,000,000	23,460,000	26,540,000	0